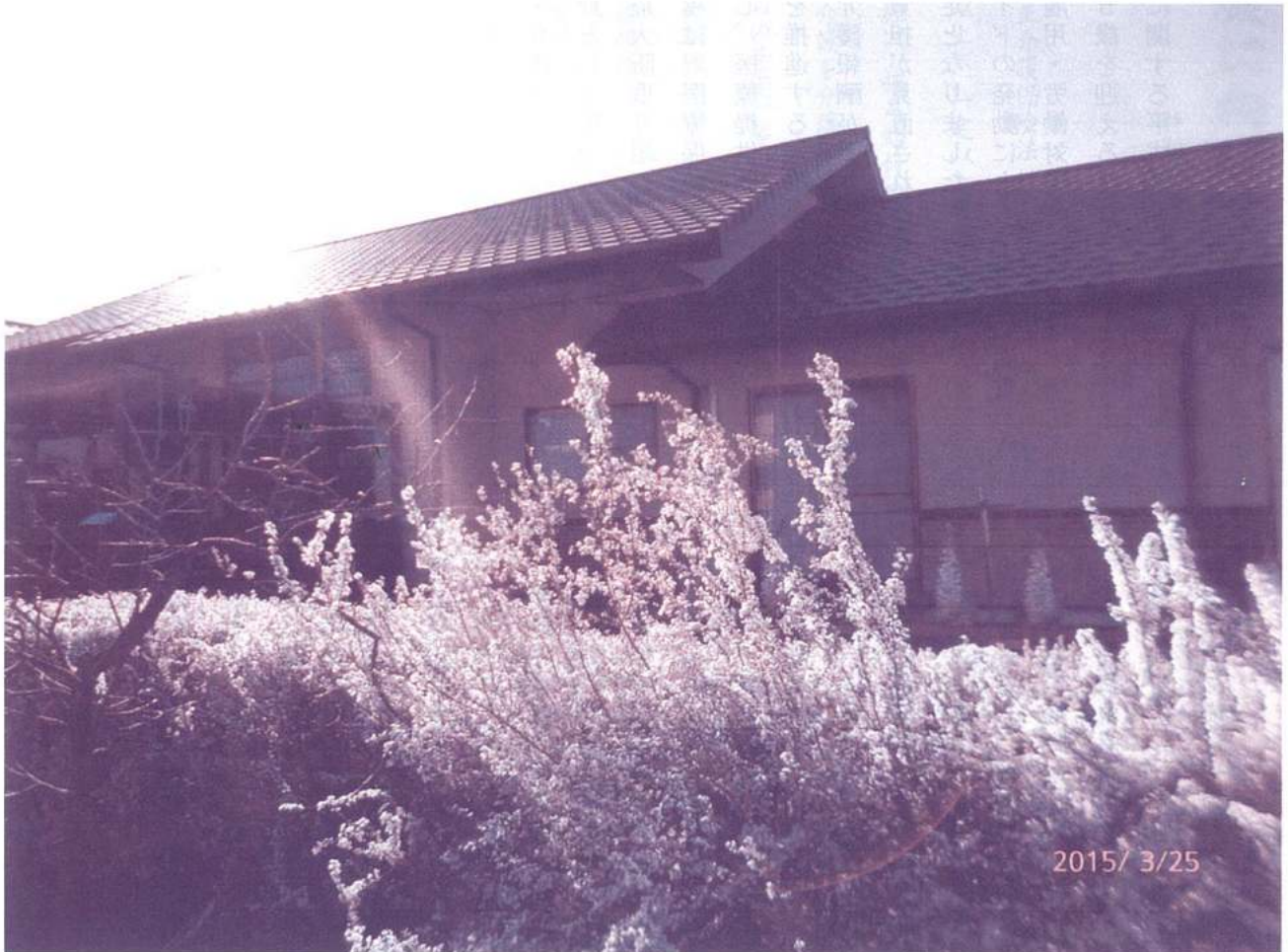


ふれあい新聞

春号



「グループホーム かみさの家」

発行日 平成 27 年 4 月 1 日 第 57 号
発行 社会福祉法人 瑞穂会
ふれあい新聞編集部
本部 〒444-0936
岡崎市上佐々木町字大官 49 番地
TEL (0564) 34-3666
FAX (0564) 34-2347

「風通しのよい職場づくり」を目指して

特別養護老人ホーム やはぎ苑

施設長 近藤 静子

今春の介護業界は、特別養護老人ホームのみならず、どの事業所も27年度の介護報酬改定で頭を抱えている。今回の改定は、マスメディアでも大きく扱われているためか家族の方や地域の方からも「今回はなんか大変ですね。」と声をかけられることがあります。政府は社会保障制度改革国民会議の報告書において、少子化対策・医療・介護・年金の4分野で具体的な方向性を示し、27年度の方針として年金・医療等に係る経費について、合理化・効率化に最大限取り組みことを求めました。そこで今年度予算の主要事項は、医療保険制度改革では、29年度までに順次抗講ずるとし、医療提供体制等では、地域における医療・介護機能の再編を推進する対策をとり、そして介護の分野では、▲2・27%介護報酬が引き下げられ、一方利用者は、所得に応じた利用者負担が見直される等、施設にもまた利用者にとっても厳しい改定となりました。また年金では、今年度初めてマクロ経済スライドの発動による年金額の調整が行われました。その他にも、雇用・労働対策や生活保護・生活困窮者対策等団塊の世代が75歳を迎える2025年を見据え、医療・介護等の分野の改革に関する平成29年度までの工程が示されています。

このように挙げていくと高齢化に伴う課題が山積している「今」が見えてきます。介護の現場では、介護報酬の請求根拠として「記録」を残すことが重要ですが、今回の改定では加算の算定要件として新たに記録しておかなければならない項目が増えた加算もあり、負担に感じている職員もいるので、今一度しっかりと時間を作って議論したいと思っています。この新聞が発刊されている頃は、丁度先輩職員がたてた研修計画に沿って新人職員は研修を受けている最中ですが、その中には「記録」の書き方の研修もあり最後には厳しいチェックが入ります。それは「記録」には、法令遵守が明らかにされていることが求められているからです。今では、私自身がチェックされることはまずありませんが、私は、職員の動きが自分の動きとして見ています。「人の振り見て我が振り直せ」 昨年度の職員を顧みること、今年度の育成の道が見えてきます。介護の業界は常に人材不足と言われ続けていますが、だからこそ毎年新たに仲間となる職員一人ひとりを大切に育てていくことを常に心がけ、それが地域の福祉の中核として信頼される施設に繋がっていくのではないかと思います。特に今年度は、風通しのよい職場づくりを目指し、もう一度基本に立ち返り、「職場での挨拶」・「素直に感謝の気持ち伝える」運動から始めたいと思っています。

4月、新規採用された職員たちのあの希望に満ちた目の輝きを曇らせる事のないように、常にやりがいのある職場であり続けるために職員一同努力してまいります。

平成二十七年齢に向け

特別養護老人ホーム くわがい

施設長 手嶋寛人

本年4月から施行される改正介護保険法は、軽度者の特別養護老人ホーム入所制限（原則要介護3以上）、一定以上所得者の利用者負担の見直し（一定以上所得者は2割負担）、補足給付の見直し（資産等の勘案）、要支援者への通所介護・訪問介護を介護保険制度から地域支援事業に移行（岡崎市は平成29年度からの予定）等、社会保障費抑制のために「給付の抑制と負担増」という方針が強く示されました。

また、同時に行われる介護報酬改定においても、平均2.27%のマインラス改定となり、特養多床室料の自己負担化等も併せ、ご利用者の皆さん、事業者にとって大変厳しい結果となりました。

さらに近年、建設業をはじめ、小売業、外食産業など幅広い業種で人手不足が表面化している影響で人件費が高騰、介護人材の確保はますます深刻化する一方で、本年12月の労働安全衛生法の改正によるストレスチェックの義務化、来年4月の実施を目指し今国会で審議が予定されている有給休暇消化の義務化等、労働環境の改善も強く求められており、事業環境は今まさに逆風の中にあります。

このように、「介護報酬のマインラス改定で収入は減るが職員処遇の改善は求められる」という非常に厳しい状況ではありますが、社会福祉法人瑞穂会の平成27年度は、この矛盾する2本の柱の両立とサービスの質の向上を目指し、さらに第6期岡崎市老人福祉計画及び社会福祉法人制度改革へ対応するため、

- 1 現行水準の介護報酬収入の確保
- 2 人材の確保・育成
- 3 労働環境の整備
- 4 サービスの質の向上
- 5 第6期岡崎市老人福祉計画の検討・準備
- 6 社会福祉法人制度改革の検討

の6点を重点目標に掲げ、団塊の世代が75歳を超え、介護が必要な高齢者が一気に増えると予想される2025年（平成37年）をメドに構築される「地域包括ケアシステム」の本格的稼働に向けて準備を進め、ご利用者の皆さんには一定の品質で同じサービスを将来にわたり安定的に継続して提供し続けることができるよう、職員の皆さんには生涯設計が可能な職場となるよう、法人にとっては財務基盤の確立を目指して全力を挙げてまい進みます。

平成27年度



message

- ① 山本 政彦 (やまもと まさひこ)
- ② やはぎ苑 特養
- ③ 明るい笑顔がモットーで誰とでも仲良くできます。資格所得が趣味です
- ④ 今まで名古屋で働いていましたが、これからは、地元で一生懸命働きたいと思います。9年の介護経験を活かして、施設に貢献できたら幸いです。



POST CARD

message

- ① 名前
- ② 勤務先
- ③ 趣味・特技
- ④ 今後の抱負



message

- ① 小窪 せさみ (こくぼ せさみ)
- ② グループホーム
- ③ 周りから「優しい」とか「人の痛みや哀しみを分かち合える」と言われます。歌が好きで、新しい事に挑戦することも好きです・
- ④ 介護福祉士の資格を取り、理学療法士・作業療法士・ケアマネの事も学びたいです。



message

- ① 武内 優 (たけうち ゆう)
- ② 第二やはぎ苑
- ③ よく人から「気が利くね」・「笑顔がいいね」と言われます。高校ではオーケストラ部でヴィオラを弾いていました。
- ④ 授業で少し介護の事を習っただけで、実際は分からない事だらけですが、笑顔を決やさず、頑張ります。◦



新入職員紹介



message

- ① 鈴木 里奈 (すずき りな)
- ② くわがい
- ③ 相撲鑑賞
絵を描くことが好きです。
- ④ ご利用者の心に寄り添える介護が出来る様に、研修を通してしっかりと学び、笑顔を忘れずいつも元気に頑張ります。

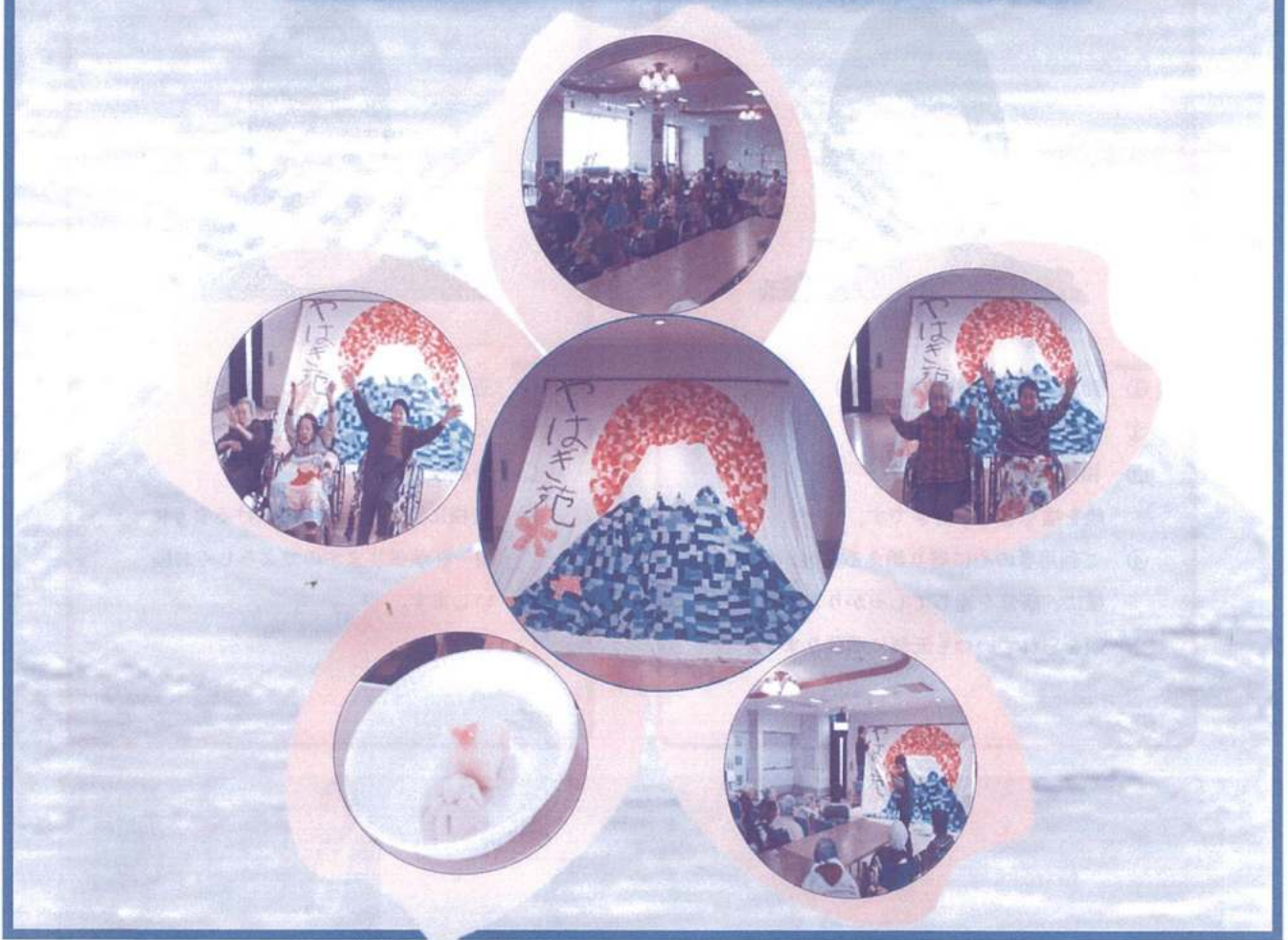


message

- ① 近藤 友紀 (こんどう ゆき)
- ② くわがい
- ③ 音楽鑑賞
- ④ 皆様に笑顔で過ごして頂けるように精一杯頑張りますのでよろしくお願い致します。



やはぎ苑 15周年記念作品



やはぎ苑 介護職員 足立 康樹

行事委員会では、やはぎ苑十五周年を記念して、一昨年から色々構想を練ってきましたが思うように実現できませんでした。

昨年の十二月、十五周年の記念としては少し時が過ぎてしまいましたが、特養の入所者・ケアハウス・デイサービスの利用者の皆さん全員参加していただいて世界遺産に登録された巨大な富士山を、布を貼り合わせて作ることに決まりました。早速、皆さんのご長寿を願い、富士山に朝日が昇っている勢いのある構図を考えて、その絵を十六のブロックに分け、二月に約一か月かけて皆さんに貼っていただき、それぞれ出来上がった十六枚を今度は一枚に繋ぎ合せ二月の終わりにようやく完成することが出来ました。

三月三日、出来上がった作品を皆さんに見て頂くため、お饅頭とお抹茶・手作りの甘酒を用意して「春祭り」を開きました。

皆さん食堂に集まって頂き、実際に見て頂くとその大きさにまず驚かれました。そして、作品の前で参加された皆さんに記念写真を撮らせていただき、おいしいお饅頭と甘酒やお抹茶を飲みながら笑顔一杯の会になりました。

今後、このような会を開いて利用者の皆さんが交流出来る場を作っていきたいと思えます。

やはぎ苑 デイサービス通信

デンソー ハートフルクラブ弥栄会

の皆さんありがとうございました。

平成 27 年 3 月 13 日

生活相談員 稲本 淳二



3月13日、デンソーOBによる「ハートフル弥栄会」の皆さんが、やはぎ苑デイサービスに見えました。

今回、たまたま刈谷のケーブルテレビが「ハートフル弥栄会」の密着取材をしているということで、同行して来苑されました。



利用者の皆さんも、テレビ局が来ることを知り始まる前から期待に胸をふくらませている様子でした。

「ハートフル弥栄会」の皆さんは、芸達者な方ばかりで、懐かしい曲をうたわれた方とは、昔を思い出しながら一緒に口ずさみ、バルーンアートでは、素晴らしい出来栄えに感動され拍手が鳴りやみませんでした。また腹話術の時には、一緒になって真似をされる利用者の方もみえましたが、口がはっきりと動いていて、大きな笑い声が部屋中響き渡りました。ほかの出し物も負けず劣らず素晴らしく、演者の熱意に応える様に利用者の皆さんも食い入るようにみられ、自然とフロア内に一体感がうまれ、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。今後もたくさん新しいものを企画して取り入れていきたいと思います。



今年度の反省と来年度に向けて

介護主任 岡田進太郎

26年度は『介護技術の向上』『認知症への理解』『24時間サービスの充実』を目標として掲げました。目標は前年度と同じとなりましたが、それぞれの目標に対しての取り組み内容をより具体的なものとして取り組んできました。取り組み結果と27年度の目標をご報告させていただきます。

『介護技術の向上』について

くわがいが開所当初より取り組んでいる「生活リハビリ」において、普段の生活の中で入居者様一人ひとりが持ち合わせている機能、能力を十分に発揮して頂けるような支援を心掛けています。さらに26年度は入居者の皆様により安全で負担の少ない生活を送ってもらえるようにと事故防止委員会にて「起き上がり」「立位、移乗」「手洗い」「着脱」について技術研修を行い、それぞれの現場へ伝達研修という形で全職員へ指導しました。介護職員は技術研修を受け



介助の基礎を学ぶことで、介助の場面で安全を意識できる様にはなってきました。しかし、内出血なども多く発生しており入居者様の身体への負担を減らすまでの結果を残すことはできませんでした。入居者の皆様には安全で負担の無い生活を送って頂けるように、27年度も引き続き技術研修を行い、介護技術を身に付けていきたいと思います。

『認知症への理解』について

一昨年度より続けている「回想法」ですが、この回想法は単発で行うものではなく長いスパンで行っていくもので、あらかじめ対象者や話し合う大きなテーマを固定しています。メンバーやテーマを固定することで昔を懐かしみながら円滑に進めることもできます。メリットはそれだけでなく、参加されている入居者様の発言や理解される内容によって、認知力を判断する目安となり、その後の生活支援に役立てることが出来ます。26年度も各ユニットが定期的に回想法を開催できたことで、認知症の方でも活き活きとした時間を過ごすことができたと思います。また、経験の

くわが い



～昔は何をするにも手がかった～



浅い職員を中心に認知症の勉強会を開催し、認知症の種類や症状を学ぶことができました。

これから益々、認知症高齢者が増えていくことが予想されています。くわがいに入居されてみえる方々が穏やかで安心した生活を送れるように、回想法の継続と認知症への理解を深めるために、介護職員へ向けての勉強会を開催していきたいと思っております。

『24時間シートの充実』について

くわがいに入居されてみえる全ての方が、「自分らしい」と思える生活を送ることができるよう、24時間シートを使用して入居

者様一人ひとりの生活を見える化しています。個々に違う生活を24時間シートに表すことで、生活支援をさせて頂く私達は情報を共有することができ、入居者様にはどの職員からも同じサポートを受けることができます。入居者様の生活に欠かすことのできない24時間シートの内容を充実させるために、26年度には「24時間シート委員会」を立ち上げ、シートの見直しから情報を収集するためのツールも作りました。繰り返し書き足していくことで、24時間シートの内容も少しずつ個人のニーズに近付けられるようになってきました。

しかし、全ての職員が理解できているというわけではなく、まだまだ内容も薄く入居者様に「自分らしい生活」を送って頂けない現状があります。24時間、365日全ての入居者様が満足のいく生活を支援させて頂く事は難しいと思いますが、少しでも生活が満たされるように24時間シート委員会を中心に24時間シートへの理解を深め、アセスメント能力を向上させていくとともに、作成した24時間シートを活用していけるように進めていこうと思えます。



グループホーム class

寒い季節も終わりました。暖かい季節となり、「外へ出かけましょ」という声が聞こえてきました。思いきり身体を動かす機会が少なかったため、まずはしっかりと朝の体操や日中活動で身体を動かして、怪我のないように楽しく時間を過ごしていけるようにしたいですね。



最終回は「ご家族の対応も認知症ケアの大切な課題なんです」をお話させていただきます。

前回に引き続き、第2回は「認知症現場に多いトラブル」「そのためのリスクマネジメントは？」についてお話させていただきます。

まずは、現場で多いトラブルに「転倒・転落」があげられます。ですが、「認知症」に携わらせて頂く私たちは、「認知症」特有の背景に目を向けていかなければなりません。単なる体力低下で転倒することだけではありません、見当識の衰えで自身の身体機能が十分に認識できておらず、足腰の弱りに気づいていないこと。この他に、進行状況によっては、平衡感覚にも影響が及び、筋力はそれほど衰えていなくても身体のバランスを崩しやすくなること。また、向精神薬を服用している場合、副作用による「ふらつき」「めまい」などでも転倒しやすくなることもあります。また、特に不安や混乱の心理に陥ることもある為、自分が認識できている世界と現実とのズレが生じてそれを何とか埋めようとする行動(とっさの行動)トラブルにつながってしまうこともあるのです。例えば、他の方のお部屋へ間違えて入ってしまったり、当事者同士がトラブルになることもあり得ます。周りからは「突飛な行動」に見えても、本人には何か理由があるはずで。

では、その為にはどうしたら良いのでしょうか？ 当たり前の事ですが、なぜ事故・トラブルが起こるのか、要因をきちんと分析することです。一人ひとりのアセスメントは本当に大切なことです。そこから一人ひとりのリスクについて正確に把握していくのです。その中で、目の前の症状は本当に認知症によるものだけなのか？ということももちろん確認することが必要です。他疾患によって幻覚や、服薬状況によって記憶障害を助長されることもある為、先ずはかかりつけの病院で疾患についても正確に診断して頂くこと。その情報を持ち、専門医へつなげること。総合的な情報を得られたら、現場ではスタッフ間の情報共有が重要となります。どこでもそうであると思いますが、スタッフ一人ひとりの経験年数や経験してきたことは違います。こうした人たちが集まって同じ目的をもってケアをしていくのです。書類を揃えたり、カンファレンスを実施していきませんが、その前に、「なぜ情報共有が大切なのか？」ということ。その人の事を深く知り、穏やかに過ごして頂けること」が事故を防ぐことにもつながります。これは、場当たりのケアを改善し、職員の業務負担を減らすことにもあります。アセスメントは、利用者様の為でもあり、スタッフの為のものでもあります。スタッフに気持ちの余裕ができることで、気づきの余裕が持てるようになってきます。利用者様の状況は日々変わってきますので、情報も少しずつ変わります。情報共有のモチベーションが低いままだと利用者様の情報更新も遅れてしまいます。日々の記録・申し送り、見直しが必要？とスタッフ間でたくさん声をあげられるように、目的意識をしっかりと持って、ケアをさせて頂きたいと思います。

地域密着型小規模特別養護老人ホーム 地域密着型小規模多機能

第二やはぎ苑

平成27年度の取り組み

介護保険法改正に伴う変更が、小規模特養、小規模多機能ともにあります。

今年度の取り組みと併せて、ご紹介いたします。

小規模特別養護老人ホーム

第二やはぎ苑

介護保険改正・介護報酬改訂に伴う変更

- ◎ 特養入所要件が、要介護3～5に変更
- ◎ 利用料金の変更
- ◎ 負担限度額認定基準の変更（一部の方、8月～）

27年度の取り組み

- ◎ 個別機能訓練の充実
- ◎ 24時間シート活用による個別ケアの推進
- ◎ 大規模災害時の事業継続計画を策定

『個別機能訓練』の充実

ご入居の方が、**その方らしい暮らし**を続けられることを目的に、おひとりおひとりに合わせた訓練を行います。



立ち上がり訓練用の手すり

小規模多機能

総合マネジメント

地域のつなぎ役



小規模多機能

やはぎ苑

介護保険改正・介護報酬改訂に伴う変更

- ◎ 多機能への登録定員を26名へ変更
- ◎ 「通い」サービス定員を18名へ変更
- ◎ 利用料金の変更

27年度の取り組み

- ◎ 利用者を中心とした総合マネジメントの強化
- ◎ 緊急利用希望等への柔軟な対応
- ◎ スタッフの技能向上

季節の行事・地域行事への参加
地域農家さんとお米づくりなどにも
取り組んで参ります。



全体会議

日時 平成二十七年 三月二十五日

平成二十六年、やはぎ苑、グループホーム、第二やはぎ苑合同の全体会議が、やはぎ苑デイサービスに於いて開かれ、それぞれ課題を発表して、意見交換をしました。

課題発表

特養2F 「シヨート利用者に対する接遇について」

特養3F 「自然排尿に向けての取り組み」

特養4F 「不適切ケアについて」

グループホーム 「平成二十六年度運営推進委員会 課題の対策と価

居宅・包括 「平成二十六年度 包括支援センターの活動につて」

第二やはぎ苑 「居室での食事対応く体制づくりと介助方法
その成果と課く」

デイサービス 「レクリエーションの取り組み」



「ありがとうございました」

（寄付・ご寄贈（平成二十六年一月〜平成二十六年三月）

* 匿名希望 様

* コカ・コーラセントラル ジャパン（株） 様

編集後記

「人の器」

よく「器が大きい人」という言葉を耳にしますが、それでは実際どのような人かネットです器の大きい人の特徴を6つ紹介してました。

- 1 自分の間違いを認められる人
- 2 他人の失敗を責めず、解決策を考えることが出来る
- 3 誰にでも分け隔てない対応が出来る
- 4 自分の感情をコントロールできる
- 5 どうでもいいと言える
- 6 許す方法を考える

その他にも、器の大きい人の特徴に、いつも上機嫌であることが挙げられるそうです。いつも上機嫌な人は基本的に、他人に機嫌を取ってもらうことはしません。自分の機嫌を上げるために、自分にとって一番いいことを考えるようにするのです。つまり「プラス思考」です。世の中には思い通りにならないことは多々あります。そこでいちいち腹を立てていると、周りの人もどう接していいか困るはず。そうならないためにマインドコントロールを出来る人も器の大きい人の特徴だそう。

自分に当てはめて、いくつ該当しましたか？「器の大きい人」になることは大変なことですが、今度入る新人職員も「器の大きい人」になれるようにお互い切磋琢磨していきましょう。